

道徳科学習指導案

主題名「いろいろな食べ方」〔学指要領：C 国際理解、国際親善〕

令和7年12月2日（火） 第5校時 4年2組教室

授業の視点

役割演技や対話を通して、りょうたの気持ちの変化を自分事として捉える活動は、児童が異文化に対する自分自身の見方を見つめ直し、違いを認め、相手を尊重する態度を育むことに有効であったか。

I 主題設定の理由

1 価値観

小学校学習指導要領の特別の教科道徳、内容項目「C主として集団や社会との関わりに関すること」の「国際理解、国際親善」において、第3学年及び第4学年では「他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと」をねらいとしている。この段階においては、我が国が様々な国々と関わりをもっていることに気付くようになる。また、自分たちの身の回りには我が国以外の多様な文化があることやそれらの文化の特徴などについて少しずつ理解や関心が高まってくる。今後この内容項目は第5学年及び第6学年において、「他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。」に発展する。

2 児童観

削除

3 教材観 教材名「いろいろな食べ方」（出典：日本文教出版）

教材の内容及び価値は、以下のとおりである。

りょうたは家にホームステイに来ているインド人の男の子のアジェイといっしょにサッカーをしたり、ゲームをしたりしていくうちに仲良くなっていく。隣町に住むひろみ姉ちゃんの家にはパキスタン人のジーナが同じようにホームステイに来ており、一緒に歓迎会をするが、そこで出されたのはりょうたの好きなビーフカレーではなく、チキンカレーだった。りょうたはアジェイとジーナが牛肉や豚肉を食べることができない理由を「好き嫌いをしている」と思い込んだり、2人が「手で食べていいか」を母親に尋ねて食べたときに「行儀が悪い」と決めつけてしまったりする。ひろみ姉ちゃんがインドやパキスタンでは手を使って食べる文化があったり、信仰している宗教上の理由で牛肉や豚肉を食べてはいけなかったりすることを教えてくれ、りょうたは日本と異なる文化や慣習があることを理解する。そしてアジェイとジーナに手で食べることを教えてもらったり、箸の使い方を教えてあげようとしたりするなど、他国の文化を知り、大切にしようとする気持ちが芽生えていく。

本教材は、他国には、日本と違う伝統や文化があることやそれらに親しみをもち、それぞれに愛着や誇りがあることを感じ取らせ、他国の伝統や文化について関心と理解を高め、もっと知りたいと思う態度を養うことに適した教材である。事前に児童に取ったアンケートを用いて自分たちの経験やイメージと照らし合わせながら、りょうたの気持ちを考えていくことで、児童の無意識のうちにある外国の文化や慣習に対する偏見や思い込みなどに触れ、自国の文化や慣習を大切にするとともに、他国の文化や慣習に理解を示したり、もっと知りたいと興味・関心をもったりすることができるかと予想される。教材の学習を通して、文化や慣習に対する感じ方や捉え方の多様性に気付き、児童自身が国際交流を図っていく際に、どのようにしたら他国と仲良くしたり、協力し合ったりできるかを考えることができる教材である。

4 人権教育との関わり

本校の人権教育目標は、「人間尊重の精神にもとづき、公正・公平にふるまい、差別しない望ましい人間関係をつくるとともに、基礎的・基本的な学習内容を身に付けた子どもを育てる」である。自分とは異なる意見や考え方を尊重することについて考える活動を通して、お互いのよさを認め合い、助け合う態度を育てていく。また第

4 学年の人権教育目標は、「自分や友だちのよさを認め、相手の気持ちを大切に協力し合える子」である。

本教材における人権教育上の課題は、異文化に対する偏見や思い込みが、知らず知らずのうちに相手を傷つけ、排除する行動につながるという点である。りょうたが「行儀が悪い」と決めつけた場面は、自文化中心主義に基づく見方である。

本時では、りょうたの気持ちの変化を追体験することで、お互いのよさや違いを認めることで、相互理解と尊重の態度を育むことを目指す。これは、グローバル社会において全ての人の尊厳を守り、共生社会を実現する基盤となる。

5 校内研修との関わり

本年度の本校の研修主題は「自他を大切にし、よりよい人間関係を築いていこうとする児童の育成」であり、副主題は「お互いを思いやる活動を通して」である。

本校の児童の実態を踏まえて、授業においてはお互いに思いやることを大切にコミュニケーションを重視し、各教科や特別活動、総合的な学習の時間等の教科の特性や児童の発達段階に応じて、異学年、縦割り、グループなどの多様な交流方法の工夫を行い、体験活動の充実を図ることを指導のあり方の軸として本年度の研修に取り組んできた。

本授業では、児童が自国と他国との文化や慣習の違いについて対話しながら、お互いに寄り添って仲良くなったり、協力し合ったりするにはどうしたらよいかを考えることができるようにする。本時では役割演技を取り入れ、主人公のりょうたの思いを児童が自分事として考えられるようにしたり、自分の考えを友達と共有する中で同じ考えや違う考えに触れたりして多面的な考えの育成につなげたい。

II 本時の学習

1 ねらい

異文化との出会いにおけるりょうたの体験を自分事として考える活動を通して、児童が自分自身の見方や感じ方を見つめ直し、違いを認め、相手を尊重する態度を育む。

2 人権教育の視点

異文化に対する自分自身の見方を見つめ直し、自分の価値観だけで相手を判断することなく、相手の文化や背景を知り、理解しようとすることで、違いを認め、相手を尊重する態度を育む。さらに、異なる文化をもつ人と実際に関わる際に、相手を尊重した言動ができる実践力を養う。

3 展開 【あみかけ＝思いやる活動】

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童の意識 [S]	○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつウォーミングアップ (5分)</p> <p>◇外国の人についてのイメージや知っていることはありますか。</p> <p>S: 外国の人はこわいイメージがある。 S: アンケートの結果を見ると自分と同じような考えの人も違う考えの人もいるな。</p> <p>めあて 本時のめあてをつかむ</p> <p><めあて> 外国の人と仲良くなるためにはどんなことが大切なのだろうか。</p>	<p>○自分の身近に存在する生活や文化の違いについて児童が今までに経験したことを想起できるように、問いかけを行う。</p> <p>○児童に事前に行ったアンケート結果の中から、現段階での外国に対するイメージや慣習について問題意識をもつことができるように、アンケート結果を提示する。</p>

- 2 教材文の範読を聞く (5分)
3 教材を通して道徳的価値観についての考えをもち交流する

ちゅうしんかつどう

◇2人のことを「ぎょうぎが悪い」と言ったりりょうたはどんなことを思っていたのでしょうか。

・ペアで役割演技をする (5分)

- S : 手で食べるなんて汚いし、嫌だなと思ったんじゃないかな。
S : OOさんは2人が日本と違う食べ方をしたから変だって思ったんだな。

◎りょうたの考えは、どのようにかわったのでしょうか。

- ◇どうしてりょうたは、考えが変わったのか。
・自分の考えをワークシートに記入し、友達と考えを共有する (15分)
S : 2人の国のことを知って仲良くなりたと思った。
S : 自分が思い込んだり、決めつけたりしてしまったことを恥ずかしいと思った。

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分)

外国の人と仲良くなるためにはどんなことが大切なのだろうか。

- S : 自分の考えだけで決めるのではなく、相手の国のことを知って理解する。

- りょうたの思いを自分事として考えられるように、アジェイとジーナの食べ方を見て、「ぎょうぎが悪い」と言った場面のりょうたの思いについて役割演技を行う。
- りょうたの偏見に気付くことができるように、りょうたが相手の国の生活や文化についてよく知らず、自分の国の生活や文化が正しいと思っている気持ちを押さえる。
- りょうたの誤解に気付くことができるように、宗教や理由で食べられないものがあることをりょうたは2人が好き嫌いをしていると思い込んでいることを確認する。
- 児童自身のこれまでの経験などと比較して考えることができるように、事前に行ったアンケート結果の中から外国についての偏見や思い込みの記述を紹介する。
- 自分の考えをもつことができるように、個人で考える時間を確保する。その後、同じ考えを見付けたり、考えをもてない児童が他の児童の意見を参考にして書いたりできるように、教室内を自由に歩き回って交流するよう促す。
- りょうたの心情の変化を自分事として理解できるように、ひろみ姉ちゃんの話聞いて知らなかった他国の生活や文化があることに気付き、それを知りたいと思ったりりょうたの変容を押さえる。
- 生活や文化に違いがあると気付き、それについて知りたいと思うようになったりょうたの変容について気付くことができるように、そのような発言をした児童を称賛する。
- 児童から出たキーワードを板書し、考えを整理できるようにする。
- りょうたの気持ちの変化を児童が読み取ることができるように声掛けをする。
- 全体で共有する時間を取り、多様な考えに触れられるようにする。
- 児童が導入時と比べて、考えの変化に気付くことができるように再度めあてを提示する。

5 本時に扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(10分)

ふりかえり

○授業を通して、自国や他国の生活や文化の違いについて理解し、どちらも大切にしていくために自分はどのようにするのか、何ができるのかを記述させる。

○児童の振り返りを共有する際に、アンケート結果を用いて、授業前と授業後でどんな変化があったかを記述できるように声掛けをする。

<振り返り>

S：じゅ業の前は外国や外国の人にはこわい人もいたけど、このお話を読んでちゃんと相手のことを知らないのに怖いと思うのはよくないと思った。外国の人と仲良くなるには相手の国のことをよく知る必要があると思った。

◆評価の視点

- ・役割演技や発言、ワークシートの記述から、自国や他国の生活や文化を認め、理解しようとするということについて、多面的・多角的に考えている姿を見取る。
- ・役割演技や発言、ワークシートの記述から、異文化に対する自分自身の見方や変容や、これからの異なる文化をもつ人とどう関わっていくかについて、自分自身との関りの中で考えている姿を見取る。